

◎「昨年を上回る勢い」＝第3回評議員会を開催

6月20、21日に実施される平成20年度第1回日本語検定（通称・「語検」）を前に、第3回評議員会が4月21日、東京・文京区の椿山荘で開催されました。会議では、今年度で2年目に入る日本語検定を取り巻く環境の変化とその対応策、通算で第3回目となる6月の検定に向けての取り組み報告や意見交換などが行われました。

この日の評議員会は、評議員のうち、倉持保男さん（三省堂「新明解国語辞典」編集委員）、佐々木毅さん（学習院大学教授）、若林清造さん（時事通信社社長）らのほか、新メンバーの山内純子さん（全日空取締役執行役員客室本部長）が出席しました。

河内義勝日本語検定委員会委員長（東京書籍社長）が、「日本語検定の評価は高い。昨年は4万3000人の受検者があったが、今年はこれを相当上回る勢いだ」とあいさつし、このあと検定事務局から、これまでの日本語検定を取り巻く環境の変化についての報告が行われました。

第3回検定は、現段階で一般会場が全国112都市、129会場、団体受検の準会場が1576会場と予定されています。

さらに、日本語検定の「質」を保証するとともに今後の問題作成に役立てるために、第2回検定の各級の問題を統計分析した結果が報告され、これを受けて第3回検定の出題に関する基本方針を討議。さらなる良問作成に向けて改善を重ね、日本語検定が国民的な検定として根付き、日本人の言語能力の向上に資するべく努めることなどが確認されました。

この中で、評議員から「若者の日本語に関する能力の低下が著しい。企業は新採用社員に対する教育プログラムの再検討を迫られ大変な状況にある」との報告がありました。

公募した日本語検定の公式キャラクターについては、予想をはるかに超える約750点もの募集があったことが報告されました。

